

## V 主な事業の取り組み状況

### 1 学校教育・青少年健全育成

#### (1) 小中一貫教育の充実

##### ① 英語教育の充実

<平成28年度実績>

###### ○教育課程特例校制度を生かした英語教育の推進

- ・ALT（外国語指導助手）2名の派遣（委託）  
小学校 週3日勤務（延べ21時間）×45週  
中学校 週5日勤務（延べ35時間）×45週
- ・1～6年生では、担任教師、英語科教師、ALTの3名、7～9年生では英語科教師、ALTの2名が、役割分担を適切に行いながら、分かりやすく、興味・関心をもたせる授業を行うことができた。
- ・文部科学省に教育課程特例校の申請をし、1・2年生では隔週1時間、3～6年生では毎週1時間の英語科の授業を行った。
- ・英語教室ホームスティランゲージの実施  
時間：月曜日6限目 対象：8年生は6～10月 7年生は11月～  
海外派遣事業に向けたより実践的な英会話を学ぶことを目的とし、ALTが主になって実施した。

###### ○児童英検・英語能力判定テストの実施

- ・児童英検（5・6年生対象）5年1月25日、6年1月27日実施  
英語学習の入門期にもっとも大切と考えられているリスニング形式で、解答は、英語を聞いてそれに合ったイラストなどに○をつける簡単なもの。全国規模で実施されるので、成績データは客観性の高いものになっている。  
※ 平均正答率：BRONZE（5年生受検）全国平均85% 飛島小平均91%  
SILVER（6年生受検） 84% 84%
- ・英語能力判定テスト（8年生対象）2月13日実施  
自らの英語能力を的確に把握できるだけでなく、①語い・熟語・文法②英文構成③読解④リスニングの4分野で出題され、分野別英語力も知ることができる。また、実用英語技能検定（英検）の何級を受けたらよいかという目安を把握することができる。  
※ 英語能力判定テスト結果（34名受験）  
準2級レベルの力がある・・・ 1名  
3級レベルの力がある・・・ 11名  
4級レベルの力がある・・・ 22名

#### <点検及び評価>

- ALTを学園に常駐派遣することで、授業や生活の場で外国人とコミュニケーションの機会が増え、英会話の実践的な力が高まってきている。
- ホームスティランゲージでは、より実践的な英会話の力がついてきている。
- 8年生に実施された英語能力判定テストでは、3分の1以上の生徒が3級以上のレベルにあり、英語技能が定着していることが分かる。

##### ② 通学路交通安全指導委託等

<平成28年度実績>

- シルバー人材センターに委託し交通指導員を配置し、生徒の登下校時の交通

安全指導を行う。

登校時 村内7箇所（県道交番前、交差点6・・・渚、役場南西、竹之郷農免、竹之郷三丁目、松之郷村道、元松神社東）

1時間×203日×7人

下校時 1箇所（県道交番前）

1～3時間×204日×1人

<点検及び評価>

○生徒の交通安全に資するだけでなく、生徒自身の安全意識の向上がはかれた。

### ③ ICT支援委託

<平成28年度実績>

○ICT教育支援員を派遣し、以下の内容で活用支援を行った。

80日×8時間 1名

支援内容 通常学級においてタブレット型PC等ICT機器の活用支援と教材作成

職員室において校務用PCの活用支援

教職員向けICT機器活用研修

<点検及び評価>

○教科担任が授業を行うとき、ICT教育支援員が活用支援に入ることで、スムーズに授業が行われ、また、担任も自信をもって進めることができた。

○既存のICT機器や電子黒板・デジタル教科書等新導入機器の活用支援も行い、活用頻度が増えた。

### ④ 小中一貫教育検証等

<平成28年度実績>

○小中一貫教育についての理解

小中一貫教育を推進する政省令が整備されるとともに、次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめの参考資料が示されたことを機会に、学園の対応の検討を行った。岐阜聖徳学園大学教授の玉置先生をお迎えして、3回に渡り小中一貫教育推進研究会をもった。それにより、交流活動を中心とした小中一貫教育から、学習活動を中心とした小中一貫教育へと大きく舵をきることとなった。

○小中一貫教育全国サミット in 武蔵村山 参加

日時 平成28年10月21日（金）・22日（土）

研究主題 「夢と希望は自身と誇りから」

～義務教育9年間を見通した教育実践～

日程 ・全体会 ・授業公開 ・分科会

○小中学校の交流活動の見直し

行事で交流するのではなく、9年間を見通した指導に重点を置くことにした。

○小中学校の縦割り活動の推進

入学式・1年生を迎える会・ふれあい交流会・体育祭・卒業式等

○異学年交流授業

社会・理科・美術・家庭科において、中学校の教員が小学校の授業を行った。

<点検及び評価>

- 講師に玉置先生を迎え、小中一貫教育の見直しを図った。交流がメインとなっていたこれまでの一貫教育から、教師が共通の考えやルールのもとで子どもを育てる方針にシフトチェンジした。小中それぞれの良さを生かしつつ、授業改善を中心とした方向性を全職員が共通理解し、29年度にスタートできるように準備を整えることができた。
- これまでの交流の成果は十分現れており、初等部の生徒は高等部の生徒に尊敬や感謝の念を抱いたり、高等部の生徒が、小さい子を世話したりすることにより、お互いを思いやる豊かな心が育っている。
- 小中一貫教育全国サミット in 武蔵村山に参加し、市全体で小中一貫教育を進めている全国の先進的な取り組みについて研修することができた。小中学校職員の協働や9年間の学びの連続性については、本校の課題でもあり、今後もさらに重点として捉え、研修を進めたい。
- 次年度も、数多くの先進地域を視察して、よりよい教育を進めるとともに、新たに告示された新学習指導要領を先取りした教育活動の推進が必要である。

⑤ 水泳授業へ講師派遣

<平成28年度実績>

- 小学生の泳力向上を図るために専門講師による指導を行った。  
10時間×6学年 各時間講師2名  
各時間2名の講師と2～3人の教員で、生徒を初級・中級・上級の3コースに分けて指導した。

<点検及び評価>

- 小学生の8割以上が、水泳を好きと回答していた。
- 高学年の約8割の生徒が25m以上泳ぐことができた。

⑥ 学校給食事業

<平成28年度実績>

- 学校給食の調理を業者に委託する。(平成22年～)  
調理員 毎日10名を配置  
調理実施日・・・190日、食数・・・82, 126食 (平均432食/日)

<点検及び評価>

- カフェテリア方式を取り入れ、短時間で配膳を行うことができた。
- 児童生徒に安心して安全な給食を提供することができた。

⑦ 非常勤講師雇用事業

<平成28年度実績>

- 非常勤講師配置

《小学校》

1週 23.6時間×13週	307時間 (1学期)	1名
1週 20時間×18週	360時間 (11月～)	1名
1週 16時間×18週	288時間 (11月～)	1名

1 週 22 時間×35 週 770 時間 (年間) 2 名

1 週 23 時間×35 週 805 時間 (年間) 1 名

・業務内容

個に応じたきめ細かい学習指導を行うため、算数の少人数指導授業、特別支援学級補助、社会・理科・図工・書写・音楽の授業に携わった。

《中学校》

1 週 10 時間×35 週 350 時間 (年間) 1 名

1 週 14 時間×35 週 490 時間 (年間) 1 名

1 週 15 時間×35 週 525 時間 (年間) 1 名

1 週 18 時間×35 週 630 時間 (年間) 1 名

・業務内容

国語・数学の少人数授業、家庭科、技術、特別支援学級の補助に携わった。

○特別支援教育補助員

1 週 13.5 時間×35 週 472 時間 (年間) 1 名

1 週 9.5 時間×35 週 333 時間 (年間) 1 名

・業務内容

肢体不自由学級を中心に特別支援学級の授業補助を行った。

○授業スキルアップ支援員

1 週 9.1 時間×35 週 320 時間 (年間) 1 名

1 週 9.1 時間×35 週 320 時間 (年間) 1 名

・業務内容

若手教員の授業を参観し、指導・支援を行った。

○図書館司書

年間 1398 時間雇用 1 名

年間 762 時間雇用 1 名

・業務内容

飛島学園において、校内メディアセンター蔵書整理と、児童生徒の実態に合った学校図書の計画的購入を行った。調べ学習時における参考図書のレファレンスサービスを行った。

<点検及び評価>

○村雇用非常勤講師を活用することにより、1～6年生の算数授業で少人数指導を実施した。また、5・6年生では一部教科担任制（社会・理科・図工・家庭科・音楽・書写）を取り入れた。中学校においては、国語や数学において少人数指導を行い、基礎学力の充実に寄与している。

○特別支援教育支援員が、特別支援学級（特に肢体不自由児学級）の補助に入ることで、個に応じたきめ細かな指導を行うことができた。また、通常学級に在籍する特別な支援を要する児童の指導にもあたることで、学級内で落ち着いて授業を受けることができるようになった。

○授業スキルアップ支援員が、少経験者の授業を参観し、アドバイスをしたり、学習プリントの効果的な使用法などを教えたりして、教員の力量アップにつながっている。

○飛島学園のメディアセンターの運営を図書館司書が中心になって行い、子どもたちの読書や調べ学習に対する意欲が高まっている。

## (2) 地域と連携した学校教育の推進

### ① 総合学習講師派遣

<平成28年度実績>

#### ○中学校「職場体験」

職場体験活動を行い、職業人の生の声を聞いた。東急ホテルからマナー講座担当の講師を招き、マナーおよび職業についての講話を聞いた。

#### ○小学校「野菜づくり体験」

5年生が地域の農家の方から野菜づくりを学び、実際に夏野菜を栽培した。収穫したトマトを使い、地域の食生活改善委員から指導を受けてトマトスコーンを作った。スコーンは全学園の人たちに配り、成果の報告とした。

#### <点検及び評価>

○働くことの意味や意義、職場でのマナー等、生徒が将来必要な職業人の感覚を体験することができた。また、自分らしい生き方の実現に向け、今すべきことを考えて実践しようとする意欲を高めることができた。

## (3) 小中学生の心身の健康づくり

### ① スクールカウンセラーの配置

<平成28年度実績>

年間198時間雇用 1名                      年間151時間雇用 1名

#### ・業務内容

保護者や生徒の相談活動を行った。専門的な知識を生かし、担任教師などと連携を図った。中学生は年2回、全員の生徒がスクールカウンセラーとの個別面談を行った。

#### <点検及び評価>

○毎日、スクールカウンセラーを配置することにより、保護者や生徒が相談したいときに迅速に相談できるという体制がとれている。専門的な知識を生かし、子どもの実態に合わせたアドバイスを受け、指導に生かしている。

### ② Q-Uアンケート

<平成28年度実績>

#### ○年2回のQ-Uアンケート

不登校やいじめを受けている可能性の高い子、学校生活の意欲が低下している子を早期に発見・対応するために行った。結果をもとに、教師はこれまでの指導を見直し、問題解決に向けて学級経営や授業を工夫することができた。

#### ○アンケート結果分析講習会

結果資料を有効に活用するため、名城大学講師 杉村秀充先生を招いて小中合同で現職教育を行い、資料の見方を教えていただいたのち、各クラスの状態や、個別の生徒の心の状態や対策について教えていただいた。

#### <点検及び評価>

○アンケートの実施や講師による結果の有効活用を学ぶことで、学級担任が児童生徒一人一人の内面や対人関係をより把握しやすくなり、学級経営を進める上でも大変効果があった。

③ いじめ問題対策

<平成28年度実績>

- いじめ問題対策連絡協議会、飛島村いじめ問題専門委員会及び飛島村いじめ問題調査委員会を設置するための条例を公布した。
- 飛島学園内においていじめ・不登校対策協議会を2回開催した。

<点検及び評価>

- いじめ防止対策推進法によるいじめの防止等のための対策を推進する基盤整備ができた。
- いじめ・不登校対策協議会の開催により学校、教育課で情報共有ができた。

(4) 就学支援の充実

① 教育支援事業

<平成28年度実績>

- 経済的な理由により就学が困難な家庭に学用品等購入費、給食費等の援助を行った。  
小学校 9名、中学校 9名
- 特別支援教育就学奨励費を支給するため要綱を制定し、次年度に向けて必要な予算要望を行った。

<点検及び評価>

- 各学期末に就学援助の支給を行い就学支援の一助となった。
- 特別支援教育就学奨励のための基盤整備ができた。

(5) 学習環境の充実

① 施設管理維持管理事業

<平成28年度実績>

- 体育用具遊具点検 1回、 浄化槽保守 26回
- 消防設備保守 2回、 電気保安保守 6回
- 総合環境衛生(清掃) 随時、 学校警備 常時
- 体育祭会場設営 1回、 除草作業 4回
- エコキュート保守 2回、 グランド整備 2回

○施設改修工事

- ・ふれあいホール吊り天井改修
- ・アリーナ吊り天井撤去工事
- ・特別支援教室増築工事
- ・エレベータ既存不適格改修工事

<点検及び評価>

- 専門知識をもった業者により施設保守等を実施した。
- 継続して委託することにより施設の長寿命化を図り、不具合・故障のあった箇所は早期に修繕を実施することができる。